

2016年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか					
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神、教育理念、使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	社会連携機構は、「地域との連携事業・地域連携活動への支援」と「生涯学習機会の提供」を事業の中核にしてきたが、これまでの取り組みを検証するとともに、本学の建学の精神及び長期ビジョンに基づく戦略的な社会連携事業計画を策定し、事業を推進している。 本機構は、社会連携担当副学長が機構長であり、機構の下に、大学の開放及び生涯学習事業の推進に寄与するための「リバティアカデミー」と地域社会と連携して地域人材の育成や地域課題の解決を図るための「地域連携推進センター」の二つの組織を設置している。設置の目的である地域連携活動の支援と生涯学習機会の提供等を推進することで、地域社会の活性化及び社会の発展に寄与することができるよう、双方の組織から委員を迎え入れている。				
(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか					
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	社会連携機構会議・リバティアカデミー運営委員会・地域連携推進センター運営委員会の各委員会において、事業計画段階での適切性について審議したうえで、事業実施している。事業実施後は事業結果の検証・評価を行っている。また、実施する事業について、適切性を図りながら円滑に推進するために、各委員会の役職者で構成する社会連携機構スタッフ会議を2016年度は30回開催し、機構内の責任主体・組織、権限、手続きを明確にしている。また、学長方針に基づく「教育・研究に関する年度計画書」において、重点事業項目の適切性について検証している。 このような状況の下、学部等学内諸機関及び専任教職員が推進する社会連携事業について、効率的・効果的連携が十分とは言い難い。		学長方針に基づき作成する「教育・研究に関する年度計画書」において、明確な理念・目的に基づき事業推進しているが、学部等学内諸機関及び専任教職員が推進する社会連携事業について、効率的・効果的連携が十分とは言い難い。		学部等学内諸機関と連携し、社会連携活動を推進する方策を見つけるよう努める。

2016年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 2 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか					
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	生涯教育、地域連携事業を推進するため、社会連携機構の下にリバティアカデミーと地域連携推進センターの二つの組織を設置している。 リバティアカデミー運営委員会、地域連携推進センター運営委員会とともに、学部・大学院との連関を有し、本大学の教育・研究理念を運営に反映し、社会連携機構の目的である地域連携活動の支援と生涯学習機会の提供等を推進することで、地域社会の活性化及び社会の発展に寄与することができるよう、両運営委員会から相互に構成員を選出している。 リバティアカデミーでは、運営委員会の下に専門部会を設置し、全学的協力体制を築き、生涯学習機関としての「質」の向上と体制強化さらに、カテゴリー・キャンパスごとに事業推進する方向性について検討しており、本大学教員がコーディネータとして「本大学の教育・研究成果」を継続的・体系的な公開教育プログラムとして社会一般に提供し、大学の保有する様々な知的資産とその環境を広く市民に開放することを通じて「開かれた大学」としての姿を追求している。 また、受講ニーズ及び社会の要請に対応すべく、2015年度より履修証明制度を活用した「女性のためのスマートキャリアプログラム」昼間コース及び夜間・土曜主コースを開設し、同プログラムは2016年10月から専門実践教育訓練給付金対象講座として指定される等、その内容が充実してきている。 地域連携推進センターにおいては、「創立者出身地3地域」「キャンパス所在自治体」「連携協定締結自治体」などとの連携事業において、個別地域の課題解決（地域活性化等）を目的としたプログラムや地域連携活動を行っている。 加えて、地域からの要望に応えるため、創立者出身3地域に「ふるさと活動隊」としての学生派遣型のプログラムを実施する等、本大学の知を地域に還元することに成功している。				
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか					
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体、組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	社会連携機構長、副機構長、リバティアカデミー長、副アカデミー長、地域連携推進センター長、副センター長、学術・社会連携部長に事務局を含めたスタッフ会議を2016年度に30回開催し、社会連携機構の事業推進方針の策定及びリバティアカデミー、地域連携推進センターの事業推進の方向性を検討するとともに、機構内の体制整備のための内規・基準制定等にも取り組んだ。				

2016年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 付属機関として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか					
a ●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該付属機関の理念・目的を実現するために、教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。【約400字】	社会連携機構規程により、社会連携機構事業目的を推進するための教員（特任、客員）を置くことができるため、教員任用に向けた「社会連携機構における教員の任用に関する内規」、同細則、「社会連携機構における教員の任用に関する内規」の特任教員に関わる資格・審査に関する細則を制定し、社会連携機構教員の役割・求められる教員像を明文化している。 リバティアカデミーでは、リバティアカデミー要綱第11条の規定に基づき、講師の任用に関し必要な事項を「リバティアカデミー講師任用基準(内規)」にて定めている。またリバティアカデミー講師に関するガイドラインにて、講師の基本姿勢、責務を明示している。地域連携推進センターでは、講師の任用に関し必要な事項を「地域連携推進センター講師任用基準(内規)」にて定めている。				
(2) 付属機関等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか					
教員の編制方針に沿った教員組織の整備					
a ◎方針と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。【600～800字】	リバティアカデミー講師任用基準に講師の資格を定め、本大学の公開学習プログラムを提供するに相応しい教員を任用している。教員編成について、2016年度にリバティアカデミー講座に関わった講師の内訳は学内講師約470名、同学外講師約650名であった。学内講師については、所属学部等に対し、講師任用基準(内規)とともに講師一覧表を配付し、周知した。 地域連携推進センターでは、講師任用に関して要綱中の規定に基づき、「地域連携推進センター講師任用基準(内規)」を定めて任用している。 また、本大学教職員58名が講義を行っており、社会で活躍している校友による講演等、オール明治の知的資産を活用し、社会に還元している。	本大学教職員58名が講義を行っており、社会で活躍している校友による講演等、オール明治の知的資産を活用し、社会に還元している。		今後も多くの退職教職員を活用するとともに、校友並びに父母を講師に招く等、本大学知的資産の活用を強化していく。	
教員組織を検証する仕組みの整備					
b ●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。【600～800字】	リバティアカデミー要綱に定める事業を推進するために、講座開設及び開講に関する事項を定めた「講座の開設及び開講基準(内規)」が制定されている。また、全講座受講生に講座満足度のアンケート調査を実施し、講師を評価している。講座及び担当教員の適合性については、各専門部会で検討し、運営委員会で承認する仕組みとなっている。				

2016年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか					
a ●<規定に沿った教員人事の実施> 教員の募集・採用・昇格について、基準、 手続を明文化し、その適切性・透明性を担 保するよう、取り組んでいるか。 【400字】	「社会連携機構における教員の任用に関する内規」、「同細 則」、「社会連携機構における教員の任用に関する内規」の特任教 員にかかわる資格・審査に関する細則」を制定し、これらに基づ き、社会連携機構客員教員1名の任用を更新し、2017年3月を以って 任期を満了した。 リバティアカデミー、地域連携推進センターにおいて教育を行う 能力があると認められる者をそれぞれの「講師任用基準（内規）」 に明記している。				
(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか					
教員の教育研究活動等の評価の実施					
a ●教員の教育研究活動の業績を適切に評価 し、教育・研究活動の活性化に努めている か。 【400字】	リバティアカデミーにおいては、受講生に講座終了時にアンケート を実施し、受講生の満足度を調査している。その中に講座内容や 担当講師の項目があり、評価の対象にしている。 また、アンケート結果を用い、担当講師にフィードバックをし、 次年度開設講座の改善に生かしている。 地域連携推進センター実施の講座及び連携事業についても、受講 生にアンケートを実施し、次年度以降の講座及び事業運営にフィ ードバックしている。	アンケート結果を用 い、担当講師にフィ ードバックをし、次年度 開設講座の改善に生か している。		アンケート結果に基 づきニーズの高いジャ ンル・テーマの講座を 次期に開設していく。	
教員の資質向上のための研修・諸活動（FD）の実施状況とその有効性					
b ●教育研究、その他の諸活動（※）に関 する教員の資質向上を図るための研修等を恒 常的かつ適切に行っているか。	全講座の受講生に講座満足度のアンケート調査を実施している。 その結果を講師へフィードバックすることで、講師は授業評価を知 ることができる。				

2016年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 5 学生の受け入れ

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画																	
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述																
(1) 受講生の受け入れ方針を明示しているか																					
a ◎理念・目的、教育目標を踏まえ、学生の受け入れ方針を定めていること。	<p>リバティアカデミーは、会員制であるが、年齢、性別、学歴などを問わず、広く門戸が開かれている。春期と秋期の二期に分け、受講生の募集を行っている。</p> <p>また、「ビジネスプログラム」「教養・文化」「資格・実務・語学」各講座受講料が20%割引になる法人優待制度があり、法人優待制度の案内パンフレットで法人会員を募集している。新規入会特典として入会年度法人会員料が無料となることをパンフレット・ホームページで周知し、多くの法人会員に利用されている。</p> <p>会員企業等からオーダーメイド型研修を継続的に受託し、外部資金獲得に努めている。</p> <p>語学講座については、講座レベルと受講生のミスマッチを防ぐために、講座レベル度をパンフレットに明記したうえで、ガイダンス授業を開催している。</p> <p>過去3年度の会員数と受講者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2014年度</th> <th>2015年度</th> <th>2016年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人会員数</td> <td>11,845人</td> <td>14,462人</td> <td>14,124人</td> </tr> <tr> <td>法人会員数</td> <td>77社</td> <td>92社</td> <td>78社</td> </tr> <tr> <td>受講生数</td> <td>19,683人</td> <td>18,840人</td> <td>20,256人</td> </tr> </tbody> </table>		2014年度	2015年度	2016年度	個人会員数	11,845人	14,462人	14,124人	法人会員数	77社	92社	78社	受講生数	19,683人	18,840人	20,256人	特にビジネスプログラムにおいて、法人優待制度利用企業からの受講生が増加している。		引き続き新規会員を獲得するために積極的に広報展開していくとともに、充実した講座展開を図ることで、初年度会費無料期間終了後の法人会員の本会員への移行及びこれまでも受けていた、会員企業等からのオーダーメイド型研修の受託の拡大にも繋げていく。	
	2014年度	2015年度	2016年度																		
個人会員数	11,845人	14,462人	14,124人																		
法人会員数	77社	92社	78社																		
受講生数	19,683人	18,840人	20,256人																		
	<p>地域連携事業において、創業者出身3地域との連携事業では、学生が本大学創業者について学び、創業者から受け継がれているアイデンティティや建学の精神の具体的な確認の場とすること及び地域振興に寄与することを目標としている。3人の創業者出身地へ実際に赴き、創業者と創業者のふるさとへの理解を深めること及び地域住民との交流や活動（現地体験）を行い地域に親しむことで、参加者自身が創業者のふるさとを「自分の新たな“ふるさと”」として捉え、地域の抱えている問題に向き合い、地域活性化に貢献することを目的とし、「ふるさと活動隊」を組織している。</p> <p>また、野沢温泉村においても、学生と地域住民との交流・連携及び現地調査・取材を通じた「地域活性化への提言」を行う課題解決型の学生派遣プログラムを実施している。募集に際しては、募集要項を作成し、各キャンパスで説明会を行っている。</p> <p>加えて、キャンパス所在自治体における連携事業の一環として、音楽を通じた町おこしを活動趣旨とし、お茶の水JAZZ祭を始めとする千代田区における各種祭事の運営に参加する明大町づくり道場を組織している。募集に際しては、学生が主体となって募集要項を作成し、各キャンパスで説明会を行っている。</p> <p>これらの学生の活動は、学部・学年を越えて学びの機会となっており、地域社会の多様な人々と協働し、交流することで、コミュニケーション能力醸成の場としても高い効果が得られている。</p> <p>「ふるさと活動隊」参加学生の次年度における活動の継続内容及び、経験者が新規参加学生に経験を伝えて継続していく方策を検討すべく、過年度参加学生に対するヒアリングを実施し、事業を検証するとともに、次年度のプログラム企画に反映している。</p>	地域連携事業における「ふるさと活動隊」及び学生派遣プログラム並びに明大町づくり道場の活動は、学部・学年を越えて学びの機会を提供しているとともに、地域社会の多様な人々と協働及び交流することで、コミュニケーション能力醸成の場としても高い効果が得られている。	「ふるさと活動隊」参加者の任期は在学中となっており、過年度現地在を訪問した参加者が、次年度にどのような活動を継続していくべきかを検討する必要がある。	地域連携事業に多くの学生が毎年継続して主体的に参加することで、創業者から受け継がれているアイデンティティ及び建学の精神の具体的な学びの場となり、地域振興に寄与する貴重な機会となる。	「ふるさと活動隊」参加者が主体的に次年度参加者に経験を伝えて継続していける体制を構築し、経験者は自ら創業者のふるさとを訪問したり、東京でのこれら地域PRイベント等に継続的に参加できる仕組みと関係性を構築してもらうよう連携自治体に働きかけていく。																

2016年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 5 学生の受け入れ

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(2) 適切に受講生の募集及び受講者の確保に努めているか					
a ●学生の受け入れ方針と学生募集、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。 (公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか、必要な規定、組織、責任体制等の整備しているか) 【約400字】	<p>春期及び秋期にリバティアカデミーパンフレットを発行し、受講生を募集している。パンフレットは、リバティアカデミー会員、学生、校友、父母会役員、企業、自治体等に幅広く送付し、リバティアカデミーの公式ホームページにおいても公開している。</p> <p>全国校友に対する発送号である「明治大学広報（9月号）」「明治大学広報（1月号）」において、2016年度リバティアカデミー講座を案内し、全国の校友に対しての広報を強化した。</p> <p>リバティアカデミーにおいて、本大学学生向けの、正課科目では得られない実践的語学力養成を目的とする修学支援講座は、授業の空き時間に学べる等利便性が高く、高いニーズがあり受講生が増加している。</p> <p>一方、同講座は業務委託契約による講座運営形態となっており、受講生が増加し成果が上がれば上がるほど、配付予算に対して支出超過となり、開設ができないと学生にとって機会損失となる構造上の課題がある。</p> <p>履修証明プログラム「女性のためのスマートキャリアプログラム」（以下、履修証明プログラム（スマキャリ）とする）においては、募集概要に基づき春期・秋期それぞれ面接試験を導入し、プログラム開設趣旨に沿った受講生を受け入れている。</p> <p>司書講習においては、運営委員会で受講生の質を確保すべく可否判定をしている。</p> <p>地域連携事業においては、「ふるさと活動隊」及び学生派遣プログラムについて応募理由書の提出を必須とし、センター長と事務局で応募書類を総合的に判断して選考している。</p> <p>また、明大町づくり道場においても、募集要項に明確な活動趣旨を提示した上で、社会連携機構の目的・理念の下に活動することを理解した者が参加する体制となっている。</p> <p>現状の課題として、「ふるさと活動隊」に、より多くの学生が参加し、在学中に継続して活動が可能な仕組みづくりを検討する必要がある。</p>		<p>「ふるさと活動隊」により多くの学生が参加し、在学中に継続して活動が可能な仕組みづくりを検討する必要がある。</p> <p>リバティアカデミーにおいて、本大学学生向けの、正課科目では得られない実践的語学力養成を目的とする修学支援講座は、授業の空き時間に学べる等利便性が高く、高いニーズがあり受講生が増加している。</p> <p>一方、同講座は業務委託契約による講座運営形態となっており、受講生が増加し成果が上がれば上がるほど、配付予算に対して支出超過となり、開設ができないと学生にとって機会損失となる構造上の課題がある。</p>		<p>参加学生にヒアリングを実施し、参加学生の経験を次年度に伝えられる仕組みを構築することで、地域連携事業に多くの学生が毎年継続して主体的に参加し、創立者から受け継がれているアイデンティティ及び建学の精神の具体的な学びの場となり、地域振興に寄与していく。</p> <p>リバティアカデミーにおいて、本大学学生向けの、正課科目では得られない実践的語学力養成を目的とする講座は、構造上の問題で支出超過となっているもの、修学支援の観点から高い成果が上がっていることから、適切な予算措置を要求していく。</p>
(4) 学生募集及び入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生選抜が実施されているか、定期的に検証を行っているか					
a ●学生の受入れの適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【400字】	<p>リバティアカデミーでは、各カテゴリーを管轄する専門部会において各講座の適正定員・対象・目標を設定及び審議して受講生を受け入れている。</p> <p>地域連携事業においては、募集要項を作成し、「ふるさと活動隊」及び学生派遣プログラムについて応募理由書の提出を必須とし、センター長と事務局で応募書類を総合的に判断して選考している。</p> <p>また、明大町づくり道場においても、募集要項に明確な活動趣旨を提示した上で、社会連携機構の目的・理念の下に活動することを理解した者が参加する体制となっている。</p>				

2016年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 <small>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</small>	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述	
(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか						
a ●社会連携・社会貢献に関する方針を定めているか。 ●教職員・学生が方針を共有しているか。	本大学は、建学の精神である「権利自由・独立自治」を継承し、また都心型大学としての特長を生かして、その使命と責任を果たす必要があり、「社会連携ポリシー」を社会との連携・協力に関する方針として定め、大学ホームページを通じて広く社会に公表している。 社会連携機構は、「地域との連携事業・地域連携活動への支援」と「生涯学習機会の提供」を事業の中核に、本学の建学の精神及び長期ビジョンに基づく戦略的な社会連携事業計画を策定し、事業を推進している。					

2016年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか						
①教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動						
<p>○生涯学習の推進（リバティアカデミー）による教育研究の成果の還元 ※連携の目的や将来構想等を付記いただくとより分かりやすいと思います。講座数、受講者数等も本文中に記載するようお願いいたします。</p>	<p>○生涯学習の推進（リバティアカデミー） リバティアカデミーは「多様化し、深化する社会のニーズに対応したカリキュラムや講座を企画・設置し、生涯教育の内容の高度化を図る」ことを実現すべく、2016年度は432講座を開講し、20,256名が受講した。リバティアカデミー講座は、本大学教職員をコーディネータとして講座企画あるいは講師とすることを方針としており、2016年度は延べ470名の本学教職員が参加した。リバティアカデミー講座の延べ講師数は1,125名であり、本学教職員の割合は41.8%となっている。カリキュラムは、大学の知を広く開放するものとして「教養・文化講座」、高度職業人養成に向けて最新のビジネススキルを提供する「ビジネスプログラム」、学生の就職や資格取得を支援する「資格・実務・語学講座」等に大別され、公開学習プログラムとして開講している。2016年度秋期には、さらなる高度な学びを提供すべく専門職大学院グローバル・ビジネス研究科と連携をし、経営者及びそれを目指す方を対象とした「エグゼクティブビジネスプログラム」を開講した。 リバティアカデミーでは、多様な生涯学習ニーズに対応するため、特色ある活動として、文部科学省や東京都などから委嘱・委託事業を受け、また「民間企業のビジネス研修」を受託し、「オーダーメイド型社員研修」として実施している。これらビジネス研修等を支える仕組みとして「法人優待制度」があり、2016年度は78社が会員登録しており、企業研修の一環として派遣される受講生も多い。受講者数は1999年設立時の2,081名からここ数年は2万人前後で推移している。 リバティアカデミーは、職業能力の再訓練を図る教育活動も目的の一つとしており、東京都から委託を受けている再就職支援を促進する大学等委託訓練のほか、履修証明プログラム（スマキャリ）昼間コース及び夜間・土曜主コースの2コースを開講し、文部科学省から「職業実践力育成プログラム」として認定されるとともに、厚生労働省から「専門実践教育訓練給付金」対象講座となる等、その内容が充実してきている。同プログラムの取り組みについては、各方面からの注目度が高くメディアからの取材も多く、本学のブランディングに貢献している。 受講者の年齢分布を評価指標として検証すると20歳代以下15.4%、30歳代9.0%、40歳代14.7%、50歳代14.3%、60歳代20.8%、70歳代以上18.1%、その他7.7%と幅広い世代に必要な教育成果を還元している。さらに30歳代から50歳代の就労世代の受講が4割近くを占める等、職業能力向上を含めた継続学習に資している点において所期の目的を達成し、教育研究成果を社会に還元する責務を十分に果たしている。</p>	<p>○生涯学習の推進（リバティアカデミー） リバティアカデミー事業推進における推進方針として、量的拡大よりも質的向上をめざし、多様な生涯学習ニーズに対応するため、2015年度に開設した履修証明プログラム（スマキャリ）昼間コース及び夜間・土曜主コースについて、文部科学省より「職業実践力育成プログラム」として認定されるとともに、厚生労働省より「専門実践教育訓練給付金」対象講座となる等、その内容が充実してきている。同プログラムの取り組みについて、各方面からの注目度が高くメディアからの取材も多く、本学のブランディングに貢献している。 より高度な学びを提供することを目的とし、専門職大学院グローバル・ビジネス研究科と連携をし、経営者及びそれを目指す方を対象とした「エグゼクティブビジネスプログラム」を開講した。 受講生の学習成果の発信の場としてのブックレットの評価は高く、リバティアカデミー講座の教材としても活用されているほか、学内書籍店でも販売しており、大学の実践的な知と教育研究成果を広く社会に還元した。</p>		<p>○生涯学習の推進（リバティアカデミー） 各キャンパス所在自治体等と連携し、今日の社会的ニーズや経済性に立脚した講座開講方針を策定し、開講講座及び講師を戦略的に配置していく。受講生の「学び直しの場」としての機能に加え、「世代間交流の場」を提供するとともに、受講生同士のコミュニケーションを通じた「生きがいを創出できる場」となるよう環境整備していく。 また、受講生のさらなる高度学習ニーズを支援・奨励するため、文部科学省「履修証明プログラム（スマキャリ）」をはじめ、講座カリキュラムの充実を図っていくとともに、既存の「教養・文化」「ビジネス」「資格・実務」「語学」プログラムの充実と見直しを図りながら、講座内容を高度化し、高齢化社会、健康志向の高まり、オリンピック・パラリンピック等の社会的ニーズに応える講座設置を目指していく。 加えて、校友会や父母会と連携した公開講座を含む地域連携事業を推進し、寄付講座、企業受託研修、国内外機関からの受託プログラム及び地方自治体との連携事業も拡張していく。 エグゼクティブビジネスプログラムについては、企業等受託研修においての実施も目指す。</p>		

2016年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 <small>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</small>	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
(検証システムと改善実績)	2016年度にリバティアカデミー運営委員会は6回開催し、開設講座や称号授与、新たに履修証明制度を活用した履修証明プログラム（スマキヤリ）履修生の入校許可者の決定、ブックレット発行等について審議したほか、2015年度の事業実績を振り返り、2016年度の事業推進方針を審議した。また、毎年、社会連携機構としてリバティアカデミーの自己点検・評価を行っており、次年度の講座企画・運営のための検証を行っている。検証システムの柱となるのは「講座終了時の受講者アンケート」による教育方法や教材等の受講満足度や講座ニーズに関する調査である。その調査結果は、担当講師へフィードバックすることにより、次回以降の講座の質保証に生かされている。開設講座を検討する「専門部会」及び開設講座を審議決定する「リバティアカデミー運営委員会」では、受講生のニーズに応える新規講座の開設を検討する材料とするなど、厳格な講座運営を行っている。					

2016年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「改善を要する点」に対する発展計画		
				「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
<p>○地域社会との連携、自治体への政策形成への寄与 ※加えて、受講者アンケートや外部評価委員会による評価など検証の仕組みがあれば追記してください。根拠資料を検討ください。</p>	<p>○ 地域社会との連携、自治体への政策形成への寄与 地域連携推進センターは、「創業者出身3地域」及び「キャンパス所在自治体」との連携事業を中核に、「連携協定締結自治体」などとの連携事業において、地域の課題解決（地域活性化等）を目的としたプログラムを多様な形態で実施すべく、自治体との連携は現地での連携講座や自治体連携講座（リバティアカデミーオープン講座、連続講座）など28講座を実施し、計3,142名が受講している。また、各地域・自治体との連携に関して、協定等に基づく連携事業を推進する自治体数は22自治体である。加えて、学内諸機関が推進する各種地域連携活動を支援し、広く社会に発信することとしており、学内諸機関及び専任教職員が推進する地域連携活動について調査し、ホームページで公開し、地域連携事業における全学のハブ的機能を果たすことを目的としている。各自治体とは連携協定等に基づき、連携事業の深化発展を目的とする連携・連絡協議会を設置し、事業推進しており、地域の活性化に寄与している。 2016年度には、新たに本大学と創業者出身地3地域それぞれとの連携だけでなく、創業者出身地3地域同士の相互連携に繋げるべく、「本大学と創業者出身地3地域連絡会」を本大学において実施した。 また、地域社会からの要請に応え、民間企業からの受託事業「地域活性化調査事業」や自治体からの要請に応えた「自治体受託講座・研修」を実施している。 特に、2009年度から推進してきた創業者3名の出身地との協定については、現地へ講師を派遣する公開講座及び本学で開催するオープン講座並びに連続講座の実施を始め、本学で夏秋に3地域の食材を用いた「ふるさと食のフェア」を実施するなどして活性化を図っている。 2012年度から、学生参加による本大学独自の地域連携プログラムである「創業者出身地への学生派遣プログラム」を実施し、2016年度からその名称を「ふるさと活動隊」として実施している。学生参加による地域連携活動は、現地フィールドワークにおいて地域の課題を発見し、地域の多様な組織体や住民との交流を踏まえ、地域活性化の政策提言の報告会を行うもので、提言内容が各自治体において実現される等、地域住民の地域活性化への「気づき」につなげる一助となっている。 一方、自治体等地域社会からの要望とのマッチングを図るため、学部等学内諸機関及び専任教職員が推進する地域連携活動等について調査・把握し、広く社会に情報発信することに努めるとともに、全学的な地域連携事業のハブ的機能を果たすことが課題となっている。</p>	<p>学生参加による社会連携活動は、現地フィールドワークにおいて地域の課題を発見し、地域の多様な組織体や住民との交流を踏まえ、地域活性化の政策提言の報告会を行うもので、提言内容が各自治体において実現される等、地域住民の地域活性化への「気づき」につなげる一助となっている。 本大学と創業者出身地3地域それぞれとの連携だけでなく、創業者出身地3地域同士の相互連携につなげるべく、「本大学と創業者出身地3地域連絡会」を本大学において実施し、自治体で共通する課題について意見交換する機会となり、各自治体の政策形成に寄与した。</p>	<p>自治体等地域社会からの要望とのマッチングを図るため、学部等学内諸機関及び専任教職員が推進する地域連携活動等について調査・把握し、広く社会に情報発信に努めるとともに、全学的な地域連携事業のハブ的機能を果たしている。</p>	<p>参加学生の活動が単年度で終わるのではなく、参加学生の経験を次年度に伝えられる仕組みを構築することで、地域連携事業に多くの学生が毎年継続して主体的に参加し、創業者から受け継がれているアイデンティティ及び建学の精神の具体的な学びの場となり、地域振興に寄与する貴重な機会となる。 本大学との連携を活用し、創業者出身地3地域同士の相互連携を構築することにより、各自治体の政策形成へ寄与する。</p>	<p>ホームページの見やすさと使い勝手を改善した上で、広く社会に情報発信に努めるとともに、学部等学内諸機関及び専任教職員と自治体を始めとする地域社会からの要望等とのマッチングを図り、全学的な地域連携事業のハブ的機能を果たしていく。</p>	

2016年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
(検証システムと改善実績)	<p>新規連携事業希望自治体からの連携事業推進に関しては、2011年度に「受入れ基準」を整備し、連携における最終目的を「包括連携」に置くことを基本として質的・量的発展をめざしている。この基準により、各自治体との協議は円滑に進めることができ、2016年度には、新たに鳥取市との連携協定が締結された。</p> <p>本大学の地域連携事業が本大学の知的資産を活用して地域に貢献すると同時に、自治体が目指す目標実現の場及び本大学学生の成長に資する活動の場として相互に寄与する一定の成果が得られている。</p> <p>2016年度に地域連携推進センター運営委員会は3回開催し、連携事業の質的・量的発展を目指していくために、2015年度の活動実績を振り返り、2016年度の活動方針を決定したうえで、2016年度事業計画や自治体との連携事業内容、新規連携希望自治体との連携事業推進方針を審議した。また、毎年、社会連携機構として地域連携推進センターの自己点検・評価を行い、次年度連携事業を企画するための検証を行っている。</p>					
(キャンパス所在地域における連携)	<p>○ キャンパス所在地域における連携</p> <p>各キャンパス所在自治体における連携事業については、これまでの実績を踏まえ制定した、各キャンパス及び農場所在自治体等との連携事業推進方針に基づき、事業推進すべく自治体との連携を図っている。</p> <p>①駿河台キャンパス</p> <p>学生主体による音楽を通じた町づくり事業「明大町づくり道場」や「お茶の水JAZZ祭」を行っている。お茶の水JAZZ祭は、千代田区長から協力要請を受けたことから端を発し、本大学出身校友と本大学学生らからなる実行委員会が主催者となり、本学が共催し、2007年度以来、アカデミーコモン3階ホールを埋める約1,000名の来場者を得て毎年開催している。また、千代田区とは、「千代田区内大学と千代田区の連携協力に関する基本協定」に基づく教育支援事業である「千代田学」に2016年度は2件採択され、教育面でも継続して所在地域との連携を図っている。</p> <p>②生田キャンパス・黒川農場</p> <p>生田キャンパスの所在する川崎市多摩区とは、多摩区内の専修大学及び日本女子大学とともに多摩区・3大学連携協議会を設置し、連携事業を実施しているほか本大学地域産学連携研究センターと連携した講座を実施した。</p> <p>黒川農場所在の川崎市麻生区とは、麻生区内（一部隣接する町田市）大学と麻生区6大学公学協働ネットワーク会議を設置し、連携事業を実施している。生田キャンパス・黒川農場を活用し、地域小中学生向けの体験型事業を実施した。</p>	各キャンパス所在自治体における連携事業については、これまでの実績を踏まえ、各キャンパス及び農場所在自治体等との連携事業推進方針の下、事業を推進している。		各キャンパス所在自治体における連携事業の効率的・効果的推進のため、各キャンパスにおける学内関係部署と、さらなる連携強化をしていく。		

2016年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
	<p>③和泉キャンパス 図書館ホールを活用したリバティアカデミーオープン講座を、春期・秋期それぞれ定期的に開催することで、本大学の生涯教育事業が広く知れ渡ることにつながっている。 世田谷区と相互協力協定を締結したことに伴い、区内大学調整連絡会議に基づく国際化プロジェクトにリーダー校として参画し、区民と留学生が交流する「せたがや国際交流ラウンジ」を4回実施した。</p> <p>杉並区については、杉並区と区内高等教育機関との連携協働推進協議会に基づき、連携事業を推進している。 また、和泉キャンパスにおける連携事業について関係部局・和泉キャンパス内関係部署と協議を実施した。</p> <p>④中野キャンパス 中野区と締結した連携協力に関する包括協定に基づき設置された連絡協議会を開催し、中野区と中野キャンパス所属教職員とも連携した連携事業を推進している。 また、中野区だけでなく、他大学（帝京平成大学、京都精華大学）、企業（KIRIN、メルシャン）などとも連携し、幅広い内容のリバティアカデミー講座を実施した。</p>	<p>杉並区との連携事業については、和泉教務事務室と連携し、世田谷区との連携事業については、主として和泉キャンパス課と連携して情報の共有化を図っている。</p> <p>世田谷区と相互協力協定を締結したことに伴い、区内大学調整連絡会議に基づく国際化プロジェクトにリーダー校として参画し、区民と留学生が交流する「せたがや国際交流ラウンジ」を4回実施した。</p>				
<p>b (検証システムと改善実績) ●社会連携・社会貢献の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させ、改善につながっているか。</p>	<p>2016年度に地域連携推進センター運営委員会を3回開催し、連携事業の質的・量的発展を目指していくために、2015年度の活動実績を振り返り、2016年度の活動方針を決定したうえで、2016年度事業計画や自治体との連携事業内容、新規連携希望自治体との連携事業推進方針を審議した。また、毎年、社会連携機構として地域連携推進センターの自己点検・評価を行い、次年度連携事業を企画するための検証を行っている。</p>					

2016年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか					
a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】	2013年7月に制定された「社会連携機構自己点検・評価委員会内規」に基づき、委員会を3回開催し、点検・評価を実施し、評価結果は、機構会議に報告し、「教育・研究に関する年度計画書及び長期・中期計画書」に反映させている。 また、リバティアカデミー講座運営委託業者に対しては、業務運営自己点検・評価の実施を依頼し、提出された報告書によって業務運営状況を確認している。				
(2) 内部質保証システムを適切に機能させているか					
a ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学者の意見を取り入れていること ●PDCAサイクルを回すための、Check (点検・評価) およびAction (改善) の具体的内容・工夫 【800字～1000字程度】	自己点検・評価を実施し、その結果を次年度の「教育・研究に関する年度計画書及びこれに関する長期・中期計画書」に反映することで、改革・改善につなげている。2016年度の自己点検・評価のうち、全体の教室使用状況の限界と効率化、履修証明プログラム運営上の諸課題及び連携協定締結に係る判断基準の明確化並びに既存協定の連携状況に鑑みた整理などの課題については、2017年度計画に反映し、計画的に改善を図ることとした。 リバティアカデミー講座については、全講座で受講生にアンケートを実施している。アンケートでは、講座の満足度・興味関心分野などの評価を求め、意見を自由に記述できる方式を併用している。アンケートの集計結果からは、愛顧度が高く、ロコミ的広報効果が期待できると思われる会員の有無等について、リバティアカデミー運営委員会及び専門部会において検討した。専門部会においては、受講生の興味関心を反映し、ヘルスケア・健康寿命の延伸やオリンピック・パラリンピック関連講座などを2017年度講座開設方針に活用している。また、アンケート結果は講師へフィードバックすることにより、各講師が自己点検を行い、次年度の開設する講座企画に反映させている。 履修証明プログラム（スマキャリ）においては、商品化実現を視野に入れた企業からの課題提供及びプレゼン指導並びに受講生の発表に対するフィードバックによる協力を得て、アクティブラーニング形式の実践的なゼミ科目を展開している。 また、再就職支援等について外部専門企業と連携し、その意見を運営に反映している他、受講生からの生の声としてアンケートだけでなく、専門部会長及びコーディネータ並びに運営事務局と受講生・修了生との意見交換・ヒアリングの機会を設け、次期カリキュラム・講座運営に生かしている。	履修証明プログラム（スマキャリ）においては、商品化実現を視野に入れた企業からの課題提供及びプレゼン指導並びに受講生の発表に対するフィードバックによる協力を得て、アクティブラーニング形式の実践的なゼミ科目を展開している。 また、再就職支援等について外部専門企業と連携し、その意見を運営に反映している他、受講生からの生の声としてアンケートだけでなく、専門部会長及びコーディネータ並びに運営事務局と受講生・修了生との意見交換・ヒアリングの機会を設け、次期カリキュラム・講座運営に生かしている。	リバティアカデミーにおいては、特に履修証明プログラム（スマキャリ）は約4カ月間継続して教室を使用することもあり、履修証明プログラムが充実してきたことで、全体の教室使用状況限界が浮き彫りになり、開講曜日の分散など効率化を図る必要がある。 また、地域連携事業においては、協定を締結している自治体との連携事業の実施状況等に鑑み、引き続き継続及び見直し等の検討を進めていく必要がある。	受講生のさらなる満足度向上のため、受講生・修了生による生の声をヒアリングする機会を継続して設けるとともに、外部専門企業を始めとする協力企業及び修了生が集う団体等と連携し、再就職及び起業等、受講生の出口支援についても本学のリソースを活用していく。 地域連携事業においては、引き続き既存協定の実施状況の精査及び協定年限の確認と見直し並びに再設定等を進めていく。	

2016年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか						
<p>a ●PDCAサイクルを回すための、Check (点検・評価) およびAction (改善) の具体的内容・工夫</p> <p><参考：以下の事項に関して、関連するものについて記述する></p> <p>①組織・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 ②教育研究活動のデータベース化の推進 ③学外者の意見の反映 など</p>	<p>社会連携機構スタッフ会議を年間30回開催し、事業の点検・評価及び改善に努めている。</p> <p>社会連携機構委員として学外者を任命し、事業に学外者の意見を反映している。</p> <p>リバティアカデミーでは、アンケート内容の改善を図り受講生の満足度を多面的に調査し、運営委員会において共有し、各カテゴリーの専門部会長にフィードバックし、次期の講座開設に生かしている。</p> <p>リバティアカデミーブックレットの発行により、受講生による学びの振り返りと成果を発表する場として機能している。</p> <p>履修証明プログラム（スマキャリ）においては、課題の提供及び再就職支援について企業の協力を得て運営に反映しているほか、受講生からの生の声として、アンケートだけでなく、専門部会長及びコーディネータ並びに運営事務局と受講生・修了生との意見交換・ヒアリングの機会を設け、次期カリキュラム・講座運営に生かしている。</p> <p>「ふるさと活動隊」・「明大町づくり道場」を始めとする学生参加型の地域連携事業においては、参加後の振り返り及び意見交換並びに事後報告書の作成等により成果を確認し、次年度の運営に生かしている。</p>	<p>リバティアカデミーにおいて、受講生によるアンケート内容の改善を図り受講生の満足度を多面的に調査し、運営委員会において共有し、各カテゴリー専門部会長にフィードバックし、次期の講座開設に生かしている。</p> <p>履修証明プログラム（スマキャリ）においては、課題の提供及び再就職支援について企業の協力を得て運営に反映しているほか、受講生からの生の声として、アンケートだけでなく、専門部会長及びコーディネータ並びに運営事務局と受講生・修了生との意見交換・ヒアリングの機会を設け、次期カリキュラム・講座運営に生かしている。</p>		<p>リバティアカデミーにおける受講生アンケートによる受講生満足度の多面的調査結果を活用し、「ビジネス」「資格・実務」「語学」プログラムの充実と見直しを図りながら、講座内容を高度化し、高齢化社会、健康志向の高まり、オリンピック・パラリンピック等の社会的ニーズに応える講座設置を目指していく。</p> <p>履修証明プログラム（スマキャリ）においては、受講生のさらなる満足度向上のため、受講生・修了生による生の声をヒアリングする機会を継続して設けるとともに、外部専門企業を始めとする協力企業及び修了生が集う団体等と連携し、再就職及び起業等、受講生の出口支援についても本学のリソースを活用していく。</p>		